

鳥取県県土整備部土木工事監督基準の手引き

令和3年4月

目次

〔段階確認における留意事項〕

1. 指定仮設工 ※指定仮設工のうち矢板工については、「9. 矢板工」による。	4
2. 掘削工（河川土工・海岸土工・砂防土工・道路土工）	4
3. 道路土工（路床盛土工）	4
4. 舗装工（下層路盤）	4
5. 表層安定処理工	4
5-1. 表層安定処理工（路床安定処理、表層混合処理）	4
5-2. 表層安定処理工（置換）	5
5-3. 表層安定処理工（サンドマット）	5
6. パーチカルドレーン工（サンドドレーン、袋詰式サンドドレーン、ペーパードレーン）	5
7. 締固め改良工（サンドコンパクションパイル）	5
8. 固結工	5
8-1. 固結工（粉体噴射攪拌、高圧噴射攪拌、スラリー攪拌、生石灰パイル）	5
8-2. 固結工（薬液注入）	6
9. 矢板工（鋼矢板、軽量鋼矢板、コンクリート矢板、広幅鋼矢板、可とう鋼矢板、鋼管矢板）任意仮設を除く	6
10. 既製杭工（既製コンクリート杭、鋼管杭、H鋼杭）	7
11. 場所打杭工（リバース杭、オールケーシング杭、アースドリル杭、大口径杭）	8
12. 深礎工	9
13. オープンケーソン基礎工、ニューマチックケーソン基礎工	10
14. 鋼管矢板基礎工	11
15. 置換工（土木工事監督基準 別紙2の重要構造物の場合）	11
16. 築堤・護岸工（新たな法線位置に設置する場合）	11
17. 護岸工	12
17-1. 護岸工（法覆護岸工のうち覆土工がある場合）	12
17-2. 護岸工（護岸基礎工）	12
17-3. 護岸工（根固工）	13
18. 重要構造物	14
18-1. 重要構造物（鉄筋コンクリート擁壁）	14
18-2. 重要構造物（鉄筋コンクリートカルバート類）	14
18-3. 重要構造物（橋台・橋脚）	15
18-4. 重要構造物（砂防堰堤）	16
18-5. 重要構造物（樋門・樋管）	16
18-6. 重要構造物（水門）	16
18-7. 重要構造物（堰）	17
18-8. 重要構造物（排水機場）	17
18-9. 重要構造物（床止め・床固め）	18
18-10. 重要構造物（共同溝）	18
19. 床版工	18
20. 鋼橋上部工（桁製作工、横断歩道橋製作工）	19
21. コンクリート橋上部工（ポストテンション桁製作工、プレキャストセグメント主桁組立工、プレビーム桁製作工、P Cホロースラブ製作工、PC版桁製作工、PC箱桁製作工、PC片持箱桁製作工、PC押し箱桁製作工、床版工・横組 工）	19
22. トンネル掘削工	19
23. トンネル支保工	20
24. トンネル覆工	20
25. トンネルインバート工	20

〔施工状況把握における留意事項〕

1. 工事測量	21
2. 用地境界、測量標	21
3. 共通の工種	21
3-1. 共通の工種（道路改良）	21
3-2. 共通の工種（護岸工・流路工）	21
4. オープンケーソン基礎工、ニューマチックケーソン基礎工、深礎工	22
5. 場所打杭（リバース杭、オールケーシング杭、アースドリル杭、大口径杭）	22
6. 重要構造物（土木工事監督基準 別紙2のうち橋梁上部工、トンネル、ダムを除く。）	22
6-1. 重要構造物	22
6-2. 重要構造物（砂防堰堤）	22
7. 床版工	23
8. コンクリート橋上部工（ポストテンション桁製作工、プレキャストセグメント主桁組立工、プレビーム桁製作工、PCホロースラブ製作工、PC版桁製作工、PC箱桁製作工、PC片持箱桁製作工、PC押出し箱桁製作工、床版工・横組工）	23
9. 橋梁耐震補強工（落橋防止装置工）	23
10. トンネル工	23
11. 抑止アンカー工（グラウンドアンカー）	24
12. 盛土工（河川、砂防、海岸）	24
13. 路体盛土工、路床盛土工	24
14. 舗装工（橋面防水工、アスファルト舗装工、半たわみ性舗装工、排水性舗装工、透水性舗装工、グースアスファルト舗装工、コンクリート舗装工、薄層カラー舗装工、ブロック舗装工、路上再生工）	24
15. コンクリート舗装補修工	25
16. 現場塗装工	25
17. 樹木・芝生管理工、植生工（施肥、薬剤散布）	25
18. 植栽維持工	25
19. 地下水位低下工（ウェルポイント、ディープウェル）	25
20. 光ケーブル配管工（配管工）	25
21. 現場点検	26
22. 自社施工対象工事	26

段階確認における留意事項

1. 指定仮設工 ※指定仮設工のうち矢板工については、「9. 矢板工」による。

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
設置完了時	使用材料	監督員の確認又は承諾（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。	1回／1工事
	高さ、幅、長さ、深さ等	設計図書どおり施工されているか確認する。	

2. 掘削工（河川土工・海岸土工・砂防土工・道路土工）

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
土（岩）質の変化した時	土（岩）質変化位置	設計図書に示された土及び岩の契約分類毎に、土質状態をボーリング柱状図等と比較し、土（岩）質変化位置を確認する。	1回／土（岩）質の変化毎

3. 道路土工（路床盛土工）

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
プルフローリング実施時	プルフローリング実施状況	路床盛土仕上げ後において、プルフローリング（締固め機械で路床面を数回走行）を実施。路床全体のたわみ状況を観察し、路床の締固めが適切に行われているか、施工不良箇所が無いかなどを確認する。	1回／1工事

4. 舗装工（下層路盤）

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
プルフローリング実施時	プルフローリング実施状況	下層路盤仕上げ後において、プルフローリング（締固め機械で路盤面を数回走行）を実施。路床全体のたわみ状況を観察し、路盤の締固めが適切に行われているか、施工不良箇所が無いかなどを確認する。	1回／1工事

5. 表層安定処理工

5-1. 表層安定処理工（路床安定処理、表層混合処理）

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
処理完了時	使用材料	監督員の確認又は承諾（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。	一般：1回／1工事 重点：1回／100m
	基準高、幅、施工厚さ、延長	設計図書と対比し、規格値以内であるか確認する。【出来形管理基準 3-2-7-2 路床安定処理工】	

5-2. 表層安定処理工（置換）

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
掘削完了時	支持地盤	基準高（掘削面）を測量するとともに、掘削底面の土質をボーリング柱状図等と対比し、支持地盤の適否を確認する。	一般：1回／1工事 重点：1回／100m
	使用材料	監督員の確認又は承諾（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。	
	幅、置換厚さ、延長	設計図書と対比し、規格値以内であるか確認する。【出来形管理基準3-2-7-3置換工】	

5-3. 表層安定処理工（サンドマット）

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
処理完了時	使用材料	監督員の確認又は承諾（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。	一般：1回／1工事 重点：1回／100m
	幅、施工厚さ、延長	設計図書と対比し、規格値以内であるか確認する。【出来形管理基準3-2-7-6サンドマット工】	

6. バーチカルドレーン工（サンドドレーン、袋詰式サンドドレーン、ペーパードレーン）

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
施工時	使用材料	監督員の確認又は承諾（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。	一般：1回／200本 重点：1回／100本 ただし、1回以上／1構造物とする。
	打込長さ	設計図書と対比し、規格値以内であるか確認する。【出来形管理基準3-2-7-7バーチカルドレーン工】	
施工完了時	位置・間隔、杭径	設計図書と対比し、規格値以内であるか確認する。【出来形管理基準3-2-7-7バーチカルドレーン工】	

7. 締固め改良工（サンドコンパクションパイル）

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
施工時	使用材料	監督員の確認又は承諾（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。	一般：1回／200本 重点：1回／100本 ただし、1回以上／1構造物とする。
	打込長さ	砂杭の施工管理記録により設計書と対比し、規格値内であるか確認する。【出来形管理基準3-2-7-8締固め改良工】	
施工完了時	位置・間隔、杭径	設計図書と対比し、規格値以内であるか確認する。【出来形管理基準3-2-7-8締固め改良工】	

8. 固結工

8-1. 固結工（粉体噴射攪拌、高圧噴射攪拌、スラリー攪拌、生石灰パイル）

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
施工時	使用材料	監督員の確認又は承諾（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。	一般：1回／200本 重点：1回／100本 ただし、1回以上／1構造物とする。
	深度	施工管理記録により設計図書と対比し、規格値内であるか確認する。【出来形管理基準3-2-7-9固結工】	
施工完了時	基準高、位置・間隔、杭径	設計図書と対比し、規格値以内であるか確認する。【出来形管理基準3-2-7-9固結工】	

8-2. 固結工（薬液注入）

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
施工時	使用材料	監督員の確認又は承諾（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。	一般：1回/20本 重点：1回/10本 ただし、1回以上/1構造物とする。
	注入深度	設計図書と対比し、設計値以上であるか確認する。	
	注入量、注入圧力等	<ul style="list-style-type: none"> 設計図書や薬液注入の施工計画（事前に監督員へ提出）と対比し、注入量や注入圧力の値が適切であるか確認する。 薬液の保管、注入作業の施工管理、排水処理、周辺状況（地下水・地盤）の監視が適切に行われているか確認する。 	

9. 矢板工（鋼矢板、軽量鋼矢板、コンクリート矢板、広幅鋼矢板、可とう鋼矢板、鋼管矢板）任意仮設を除く

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
打込時	使用材料	監督員の確認又は承諾（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。	（鋼管矢板以外） 試験矢板＋ 一般：1回/150枚 重点：1回/100枚 （鋼管矢板のみ） 試験矢板＋ 一般：1回/75本 重点：1回/50本
	長さ	打込前に矢板長を測定し、設計値以上であるか確認する。	
	溶接部の適否	外観検査（円周溶接部の目違い）、浸透探傷試験及び放射線透過試験により、溶接部の適否を確認する。 また、中掘工法等で放射線透過試験が不可能な場合は、超音波探傷試験とする。【品質管理基準 3既設杭工を準用】	
打込完了時	基準高、根入長、変位	設計図書と対比し、規格値以内であるか確認する。（鋼管矢板についても下記を準用） <ul style="list-style-type: none"> 本設の場合：【出来形管理基準 3-2-3-4 矢板工】 指定仮設の場合：【出来形管理基準 3-2-10-5-1 土留・仮締切工】 	

10. 既製杭工（既製コンクリート杭、鋼管杭、H鋼杭）

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
打込時	使用材料	監督員の確認又は承諾（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。	試験杭＋ 一般：1回／10本 重点：1回／5本 ただし、1回以上／1構造物とする。
	長さ	打設前に杭長を測定し、設計値以上であるか確認する。	
	溶接部の適否	外観検査（円周溶接部の目違い）、浸透探傷試験及び放射線透過試験により、溶接部の適否を確認する。また、中掘工法等で放射線透過試験が不可能な場合は、超音波探傷試験とする。【品質管理基準 6既設杭工】	
	杭の支持力	貫入状況、打ち止まり状況等から支持層を確認するとともに、杭の支持力を算定し、設計支持力が得られているか確認する。	
打込完了時（打込杭）	基準高、根入れ長、偏心量、傾斜	設計図書と対比し、規格値以内であるか確認する。【出来形管理基準 3-2-4-4-1 既製杭工】	
掘削完了（中掘杭）	掘削長さ	設計図書と対比し、設計値以上であるか確認する。	
	杭の先端土質	掘削土の土質状態をボーリング柱状図等と比較し、支持地盤の適否を確認する。	
施工完了時（打込杭）	基準高、根入れ長、偏心量、傾斜	設計図書と対比し、規格値以内であるか確認する。【出来形管理基準 3-2-4-4-1 既製杭工】	
杭頭処理完了時	杭頭処理状況	（1）鋼管杭、H鋼杭 ・杭頭の仕上げに際して、杭の本体を損傷させないように仕上げているか確認する。 ・杭頭を切りそろえる場合は、水平かつ平滑に切断されているか確認する。 ・補強鉄筋の配置や溶接が適切か、ずれ止めの取付け位置や構造が適切に行われているか確認する。	一般：1回／10本 重点：1回／5本 ただし、1回以上／1構造物とする。
		（2）コンクリート杭 ・杭頭の仕上げに際して、杭の本体を損傷させないように仕上げているか確認する。 ・杭頭をカットオフする場合は、杭内に設置されている鉄筋等の鋼材に損傷箇所はないか、水平に切断されているか確認する。また、補強鉄筋の配置や溶接が適切に行われているか確認する。	

11. 場所打杭工（リバース杭、オールケーシング杭、アースドリル杭、大口径杭）

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
掘削完了時	掘削長さ	設計図書と対比し、設計値以上であるか確認する。	試験杭＋ 一般：1回／10本 重点：1回／5本 ただし、1回以上／1構造物とする。
	支持地盤	掘削土の土質状態をボーリング柱状図等と比較し、支持地盤の適否を確認する。	
鉄筋組立完了時	使用材料	監督員の確認又は承諾（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。	
	設計図書との対比	〔鉄筋の径、加工寸法〕 鉄筋の径及び加工寸法について、設計図書どおりであるか確認（代表的な部材2種類以上）する。	
		〔鉄筋の平均間隔、かぶり厚さ〕 鉄筋の平均間隔やかぶり厚さを設計図書と対比し、規格値以内であるか確認（各2箇所以上）する。【出来形管理基準1-3-7-4組立て】	
		〔スペーサー〕 ・鉄筋かごには、設計図書に示されたかぶりが確保できるように、スペーサーを同一深さ位置に4箇所以上、深さ方向3m間隔程度で取り付けているか確認する。	
〔鉄筋の継手〕 重ね継手の位置や長さは設計図書どおりであるか、直径0.8mm以上の焼なまし鉄線で数箇所緊結されているか確認（2箇所以上）する。			
	〔その他〕 鉄筋の交点の要所を、直径0.8mm以上の焼なまし鉄線、またはクリップ等で鉄筋が移動しないよう緊結し、コンクリートの打設に際し、変形・異動の恐れがないか確認する。		
施工完了時	基準高、根入長、偏心量、傾斜、杭径	設計図書と対比し、規格値以内であるか確認する。【出来形管理基準3-2-4-5場所打杭工】	
杭頭処理完了時	杭頭処理状況	・杭頭処理に際して、杭の本体を損傷させないように仕上げていくか確認する。 ・帯鉄筋の径、本数、間隔及び定着長について、設計図書どおりであるか確認する。	一般：1回／10本 重点：1回／5本 ただし、1回以上／1構造物とする。

12. 深礎工

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
土(岩)質の変化した時	土(岩)質変化位置	設計図書に示された土及び岩の契約分類毎に、土質状態についてボーリング柱状図等と比較し、土(岩)質変化位置を確認する。	1回/土(岩)質の変化毎
掘削完了時	掘削長さ	設計図書と対比し、設計値以上であるか確認する。	一般：1回/3本 重点：全数 ただし、1回以上/1構造物とする。
	支持地盤	掘削土の土質状態をボーリング柱状図等と比較し、支持地盤の適否を確認する。	
鉄筋組立完了時	使用材料	監督員の確認又は承諾(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか確認する。	1回/1本
	設計図書との対比	[鉄筋の径、加工寸法] 鉄筋の径及び加工寸法について、設計図書どおりであるか確認(代表的な部材3種類以上)する。	
		[鉄筋の平均間隔、かぶり厚さ] 鉄筋の平均間隔やかぶり厚さを設計図書と対比し、規格値以内であるか確認(各2箇所以上)する。【出来形管理基準1-3-7-4組立て】	
		[鉄筋の継手] 重ね継手の位置や長さは設計図書どおりであるか、直径0.8mm以上の焼なまし鉄線で数箇所緊結されているか確認(2箇所以上)する。	
[その他] 鉄筋を組み立てる場合は、曲がりやよじれが生じないように、土留材に固定しているか確認する。			
施工完了時	基準高、根入長、偏心量、傾斜、杭径	設計図書と対比し、規格値以内であるか確認する。【出来形管理基準3-2-4-6深礎工】	一般：1回/3本 重点：全数 ただし、1回以上/1構造物とする。
グラウト注入時	使用材料	監督員の確認又は承諾(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか確認する。	
	使用量	注入モルタルの使用量について、記録計等により確認する。	

13. オープンケーソン基礎工、ニューマチックケーソン基礎工

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
刃口金物据付完了時	使用材料	刃口金物（鉄沓）について、刃口部の形状や構造が、ケーソン重量及び地盤条件を考慮して設計製作されたものか確認する。	1回/1構造物
	施工位置	刃口金物（鉄沓）の据付位置が、設計図書どおりであるか確認する。	
本体設置前（オープンケーソン）	支持層	掘削土の土質状態をボーリング柱状図等と比較し、支持地盤の適否を確認する。	
掘削完了時（ニューマチックケーソン）	支持層	掘削完了時、底面地盤の支持力と地盤反力係数を確認するために平板載荷試験を行い、設計図書との適合を確認する。	
土（岩）質の変化した時	土（岩）質変化位置	設計図書に示された土及び岩の契約分類毎に、土質状態をボーリング柱状図等と比較し、土（岩）質変化位置を確認する。	1回/土（岩）質の変化毎
鉄筋組立完了時	使用材料	監督員の確認又は承諾（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。	1回/1ロット
	設計図書との対比	〔鉄筋の径、加工寸法〕 鉄筋の径及び加工寸法について、設計図書どおりであるか確認（代表的なもの3種類以上）する。	
		〔鉄筋の平均間隔、かぶり厚さ〕 鉄筋の平均間隔やかぶり厚さを設計図書と対比し、規格値以内であるか確認（各2箇所以上）する。【出来形管理基準 1-3-7-4 組立て】	
		〔スペーサー〕 構造物の側面は2個以上/m ² 、底面は4個以上/m ² のスペーサーを適切に配置しているか、コンクリート製あるいはモルタル製で本体コンクリートと同等以上の品質を有するスペーサーを使用しているか確認（2箇所以上）する。	
		〔鉄筋の継手〕 ・重ね継手の位置や長さは設計図書どおりであるか、直径0.8mm以上の焼なまし鉄線で数箇所緊結されているか確認（2箇所以上）する。 ・ガス圧接について、超音波探傷試験により規格値内であるか確認（品質管理点数の30%以上）する。【品質管理基準 2ガス圧接】	
		〔その他〕 鉄筋の交点の要所を、直径0.8mm以上の焼なまし鉄線、またはクリップ等で鉄筋が移動しないよう緊結し、コンクリートの打設に際し、変形・異動の恐れがないか確認する。	

14. 鋼管矢板基礎工

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
打込時	使用材料	監督員の確認又は承諾（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。	試験矢板＋ 一般：1回／10本 重点：1回／5本
	長さ	打設前に矢板長を測定し、設計値以上であるか確認する。	
	溶接部の適否	外観検査（円周溶接部の目違い）、浸透探傷試験及び放射線透過試験により、溶接部の適否を確認する。また、中掘工法等で放射線透過試験が不可能な場合は、超音波探傷試験とする。 【品質管理基準 6 既設杭工を準用】	
	支持力	貫入状況、打ち止まり状況等から支持層を確認するとともに、杭の支持力を算定し、設計支持力が得られているか確認する。	
打込完了時	基準高、根入長、偏心量	設計図書と対比し、規格値以内であるか確認する。【出来形管理基準 3-2-4-9 鋼管矢板基礎工】	
杭頭処理完了時	杭頭処理状況	<ul style="list-style-type: none"> ・杭頭の仕上げに際して、杭の本体を損傷させないよう仕上げているか確認する。 ・杭頭を切りそろえる場合は、水平かつ平滑に切断されているか確認する。 ・補強鉄筋の配置や溶接が適切か、ずれ止めの取付け位置や構造が適切に行われているか確認する。 	一般：1回／10本 重点：1回／5本

15. 置換工（土木工事監督基準 別紙2の重要構造物の場合）

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
掘削完了時	支持地盤	基準高（掘削面）を測量するとともに、掘削底面の土質状態をボーリング柱状図等と比較し、支持地盤の適否を確認する。	1回／1構造物
	使用材料	監督員の確認又は承諾（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。	
	幅、延長、置換厚さ	設計図書と対比し、規格値以内であるか確認する。【出来形管理基準 3-2-7-3 置換工】	

16. 築堤・護岸工（新たな法線位置に設置する場合）

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
法線設置完了時	法線設置状況	法線の位置方向について設計図書と対比し、設計図書どおりであるか確認する。	1回／1法線

17. 護岸工

17-1. 護岸工（法覆護岸工のうち覆土施工がある場合）

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
覆土前	設計図書との対比（不可視部分の出来形）	<ul style="list-style-type: none"> ・不可視部分の出来形について覆土前に設計図書と対比し、測定項目が規格値以内であるか確認する。 ・測定項目は、出来形管理基準に従うこととし、法覆護岸工の形式により以下の（１）～（５）による。 	1回／1工事
		（１）コンクリートブロック工、環境護岸ブロック工の場合 <ul style="list-style-type: none"> ・【3-2-5-3-1 コンクリートブロック積（張）】：基準高、法長、厚さ、延長 ・【3-2-5-3-2 連結ブロック張り】：基準高、法長、延長 	
		（２）緑化ブロック工の場合 <ul style="list-style-type: none"> ・【3-2-5-4 緑化ブロック工】：基準高、法長、厚さ、延長 	
		（３）石積（張）工の場合 <ul style="list-style-type: none"> ・【3-2-5-5 石積（張）工】：基準高、法長、厚さ、延長 	
		（４）多自然型護岸工の場合 <ul style="list-style-type: none"> ・【3-2-3-26-1 多自然型護岸工（巨石張、巨石積）】：基準高、法長、延長 ・【3-2-3-26-2 多自然型護岸工（かごマット）】：法長、厚さ、延長 	
		（５）羽口工の場合 <ul style="list-style-type: none"> ・【3-2-3-27-1 羽口工（じゃかご）】：法長、厚さ ・【3-2-3-27-2 羽口工（ふとんかご、かご枠）】：高さ、延長 	

17-2. 護岸工（護岸基礎工）

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
設置完了時	設計図書との対比（不可視部分の出来形）	<ul style="list-style-type: none"> ・不可視部分の出来形について、埋戻し前に設計図書と対比し、測定項目が規格値以内であるか確認する。 ・測定項目は、出来形管理基準に従うこととし、護岸基礎工の形式により以下の（１）～（３）による。 	1回／1工事
		（１）現場打コンクリートの場合 <ul style="list-style-type: none"> ・【3-2-4-3-1 基礎工（護岸）（現場打）】：基準高、幅、高さ、延長 ・【7-1-5-5 場所打コンクリート工】：基準高、幅、高さ、延長 	
		（２）プレキャスト、コンクリートブロックの場合 <ul style="list-style-type: none"> ・【3-2-4-3-2 基礎工（護岸）（プレキャスト）】：基準高、延長 ・【7-1-5-6 海岸コンクリートブロック工】：基準高、ブロック厚、ブロック縦横幅、延長 	
		（３）矢板工の場合 <ul style="list-style-type: none"> ・【3-2-3-4 矢板工】：基準高、根入長、変位 	

17-3. 護岸工（根固工）

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
設置完了時	設計図書との対比（不可視部分の出来形）	<ul style="list-style-type: none"> ・不可視部分の出来形について、埋戻し前に設計図書と対比し、測定項目が規格値以内であるか確認する。 ・測定項目は、出来形管理基準に従うこととし、根固工の形式により以下の（１）～（４）による。 	1回／1工事
		（１）根固めブロック工の場合 <ul style="list-style-type: none"> ・【3-2-3-17 根固めブロック工】：基準高、厚さ、幅、延長 	
		（２）沈床工の場合 <ul style="list-style-type: none"> ・【3-2-3-18 沈床工】：基準高、幅、延長 	
		（３）捨石工の場合 <ul style="list-style-type: none"> ・【3-2-3-19 捨石工】：基準高、幅、延長 	
		（４）かご工の場合 <ul style="list-style-type: none"> ・【3-2-3-27-1 羽口工（じゃかご）】：法長、厚さ ・【3-2-3-27-2 羽口工（ふとんかご、かご枠）】：高さ、延長 	

18. 重要構造物

18-1. 重要構造物（鉄筋コンクリート擁壁）

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
土（岩）質の変化した時	土（岩）質変化位置	設計図書に示された土及び岩の契約分類毎に、土質状態をボーリング柱状図等と比較し、土（岩）質変化位置を確認する。	1回／土（岩）の変化毎
床掘掘削完了時	支持地盤（直接基礎）	基準高（掘削面）を測量するとともに、掘削底面の土質状態をボーリング柱状図等と比較し、支持地盤の適否を確認する。 また、必要に応じて平板載荷試験を実施し、試験結果により判断する。	1回／1構造物
鉄筋組立完了時	使用材料	監督員の確認又は承諾（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。	1回／1ロット
	設計図書との対比	〔鉄筋の径、加工寸法〕 鉄筋の径及び加工寸法について、設計図書どおりであるか確認（代表的な部材3種類以上）する。	
		〔鉄筋の平均間隔、かぶり厚さ〕 鉄筋の平均間隔やかぶり厚さを設計図書と対比し、規格値以内であるか確認（各2箇所以上）する。【出来形管理基準1-3-7-4組立て】	
		〔スペーサー〕 構造物の側面は2個以上/m ² 、底面は4個以上/m ² のスペーサーを適切に配置しているか、コンクリート製あるいはモルタル製で本体コンクリートと同等以上の品質を有するスペーサーを使用しているか確認（2箇所以上）する。	
		〔鉄筋の継手〕 ・重ね継手の位置や長さは設計図書どおりであるか、直径0.8mm以上の焼なまし鉄線で数箇所緊結されているか確認（2箇所以上）する。 ・ガス圧接について、超音波探傷試験により規格値内であるか確認（品質管理点数の30%以上）する。【品質管理基準 5ガス圧接】	
〔その他〕 鉄筋の交点の要所を、直径0.8mm以上の焼なまし鉄線、またはクリップ等で鉄筋が移動しないよう緊結し、コンクリートの打設に際し、変形・異動の恐れがないか確認する。			
埋戻し前及び設置完了時	設計図書との対比（不可視部分の出来形を含む）	・構造物の出来形について設計図書と対比し、測定項目が規格値以内であるか確認する。 ・測定項目は、以下の出来形管理基準による。 【3-2-15-1 場所打擁壁工】：基準高、厚さ、裏込厚さ、幅、高さ、延長	1回／1構造物

18-2. 重要構造物（鉄筋コンクリートカルバート類）

「土（岩）質の変化した時」、「床掘掘削完了時」、「鉄筋組立完了時」は、18-1. 重要構造物（鉄筋コンクリート擁壁）と同じ。

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
埋戻し前及び設置完了時	設計図書との対比（不可視部分の出来形を含む）	・構造物の出来形について設計図書と対比し、測定項目が規格値以内であるか確認する。 ・測定項目は、出来形管理基準に従うこととし、構造物の種別により以下の（1）（2）による。 （1）河川構造物の場合 ・【6-3-5-6-1 函渠工（本體工）】：基準高、厚さ、幅、内空幅、内空高、延長 （2）道路構造物の場合 ・【10-1-9-6 現場打函渠工】：基準高、厚さ、幅（内法）、高さ、延長	1回／1構造物

18-3. 重要構造物（橋台・橋脚）

「土（岩）質の変化した時」、「床掘削完了時」、「鉄筋組立完了時」は、18-1. 重要構造物（鉄筋コンクリート擁壁）と同じ。

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
埋戻し前及び設置完了時	設計図書との対比（不可視部分の出来形を含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・構造物の出来形について設計図書と対比し、測定項目が規格値以内であるか確認する。 ・測定項目は、出来形管理基準に従うこととし、構造物の種別により以下の（１）～（３）による。 <p>（１）橋台の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【10-3-6-8 橋台躯体工】：基準高、厚さ、天端幅、敷幅、高さ、胸壁の高さ、天端長、敷長、胸壁間距離 <p>（２）橋脚の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【10-3-7-9-1 橋脚躯体工（張出式）】：基準高、厚さ、天端幅、敷幅、高さ、天端長、敷長、橋脚中心間距離 ・【10-3-7-9-2 橋脚躯体工（ラーメン式）】：基準高、厚さ、天端幅、敷幅、高さ、長さ、橋脚中心間距離 <p>（３）橋脚フーチング工の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【10-3-8-9-1 橋脚フーチング工（I型・T型）】：基準高、幅、高さ、長さ ・【10-3-8-9-2 橋脚フーチング工（門型）】：基準高、幅、高さ <p>・また、上記のうち【10-3-6-8 橋台躯体工】、【10-3-7-9-2 橋脚躯体工（張出式）】及び【10-3-7-9-4 橋脚躯体工（ラーメン式）】について、以下の項目は任意測定（工事目的物に応じ測定又は確認）とする。</p> <p style="padding-left: 40px;">支間長及び中心線の変位 支承部アンカーボルトの箱抜き規格値</p>	1回／1構造物
沓座の位置決定時	沓座の位置	前後の下部工沓座との相互関係及び沓座の高さ等について、設計図書どおりであるか確認する。	1回／1構造物

18-4. 重要構造物（砂防堰堤）

「土（岩）質の変化した時」、「床堀掘削完了時」、「鉄筋組立完了時」は、18-1. 重要構造物（鉄筋コンクリート擁壁）と同じ。

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
埋戻し前及び設置完了時	設計図書との対比（不可視部分の出来形を含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・構造物の出来形について設計図書と対比し、測定項目が規格値以内であるか確認する。 ・測定項目は、出来形管理基準に従うこととし、構造物の種別により以下の（１）～（３）による。 <p>（１）堰堤本体工（副堤工）の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【8-1-8-4 コンクリート堰堤本体工】：基準高、天端部幅、堤幅、水通しの幅、堤長 ・【8-1-9-6 鋼製側壁工（コンクリートに関する部分）】：8-1-8-4 コンクリート堰堤本体工に準じる <p>（２）側壁工の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【8-1-8-6 コンクリート側壁工】：基準高、幅、長さ ・【8-1-9-6 鋼製側壁工（コンクリートに関する部分）】：8-1-8-6 コンクリート側壁工に準じる <p>（３）水叩工の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【8-1-8-8 水叩工】：基準高、幅、厚さ、延長 	1回／1構造物
法線設置完了時	法線設置状況	法線の位置や方向について設計図書と対比し、設計図書どおりであるか確認する。	1回／1法線
打継目処理完了時	打継目処理状況	打継目の処理について、コンクリート表面のレイタンスや緩んだ骨材粒などを完全に除去し、粗骨材粒を露出させているか、十分に吸水させているかを確認する。 また、必要がある場合は、高圧水、ワイヤブラシ等により、表面を粗にしているかを確認する。	前回工事とのコンクリート打継面＋1回以上／工事

18-5. 重要構造物（樋門・樋管）

「土（岩）質の変化した時」、「床堀掘削完了時」、「鉄筋組立完了時」は、18-1. 重要構造物（鉄筋コンクリート擁壁）と同じ。

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
埋戻し前及び設置完了時	設計図書との対比（不可視部分の出来形を含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・構造物の出来形について設計図書と対比し、測定項目が規格値以内であるか確認する。 ・測定項目は、出来形管理基準に従うこととし、構造物の種別により以下による。 <ul style="list-style-type: none"> ・【6-3-5-6-1 函渠工（本体工）】：基準高、厚さ、幅、内空幅、内空高、延長 ・【6-3-5-7～8 翼壁工、水叩工】：基準高、厚さ、幅、高さ、延長 	1回／1構造物

18-6. 重要構造物（水門）

「土（岩）質の変化した時」、「床堀掘削完了時」、「鉄筋組立完了時」は、18-1. 重要構造物（鉄筋コンクリート擁壁）と同じ。

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
埋戻し前及び設置完了時	設計図書との対比（不可視部分の出来形を含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・構造物の出来形について設計図書と対比し、測定項目が規格値以内であるか確認する。 ・測定項目は、出来形管理基準に従うこととし、構造物の種別により以下による。 <ul style="list-style-type: none"> ・【6-4-6-7～11 床版工、堰柱工、門柱工、ゲート操作台工、胸壁工】：基準高、厚さ、幅、高さ、延長 ・【6-4-6-12 翼壁工】：18-5. 重要構造物（樋門・樋管）と同じ ・【6-4-6-13 水叩工】：18-5. 重要構造物（樋門・樋管）と同じ 	1回／1構造物

18-7. 重要構造物（堰）

「土（岩）質の変化した時」、「床掘削完了時」、「鉄筋組立完了時」は、18-1. 重要構造物（鉄筋コンクリート擁壁）と同じ。

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
埋戻し前及び設置完了時	設計図書との対比（不可視部分の出来形を含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・構造物の出来形について設計図書と対比し、測定項目が規格値以内であるか確認する。 ・測定項目は、出来形管理基準に従うこととし、構造物の種別により以下の（１）～（２）による。 <hr/> <p>（１）可動堰の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【6-5-6-8～11 床版工、堰柱工、門柱工、ゲート操作台工】：18-6. 重要構造物（水門）と同じ ・【6-5-6-12 水叩工】：18-5. 重要構造物（樋門・樋管）と同じ ・【6-5-6-13～14 閘門工、土砂吐工】：基準高、厚さ、幅、高さ、延長 <hr/> <p>（２）固定堰の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【6-5-7-8～10 堰本体工、水叩工、土砂吐工】：基準高、厚さ、幅、高さ、堰長 	1回／1構造物

18-8. 重要構造物（排水機場）

「土（岩）質の変化した時」、「床掘削完了時」、「鉄筋組立完了時」は、18-1. 重要構造物（鉄筋コンクリート擁壁）と同じ。

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
埋戻し前及び設置完了時	設計図書との対比（不可視部分の出来形を含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・構造物の出来形について設計図書と対比し、測定項目が規格値以内であるか確認する。 ・測定項目は、出来形管理基準に従うこととし、構造物の種別により以下による。 <ul style="list-style-type: none"> ・【6-6-4-6 本体工】：基準高、厚さ、幅、高さ、延長 ・【6-6-4-7 燃料貯油槽工】：基準高、厚さ、幅、高さ、延長 	1回／1構造物

18-9. 重要構造物（床止め・床固め）

「土（岩）質の変化した時」、「床堀掘削完了時」、「鉄筋組立完了時」は、18-1. 重要構造物（鉄筋コンクリート擁壁）と同じ。

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
埋戻し前及び設置完了時	設計図書との対比（不可視部分の出来形を含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・構造物の出来形について設計図書と対比し、測定項目が規格値以内であるか確認する。 ・測定項目は、出来形管理基準に従うこととし、構造物の種別により以下の（１）～（３）による。 <p>（１）床止め工の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【6-7-4-6 床固め本土工】：基準高、天端幅、堤幅、堤長、水通し幅 ・【6-7-4-7 取付擁壁工】：18-1. 重要構造物（鉄筋コンクリート擁壁）と同じ ・【6-7-4-8 水叩工】：基準高、厚さ、幅、延長 <p>（２）床固め工（河川）の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【6-7-5-4 本堤工】、【6-7-5-5 垂直壁工】：6-7-4-6 床止め本土工と同じ ・【6-7-5-6 側壁工】：基準高、天端幅、堤幅、長さ ・【6-7-5-7 水叩工】：6-7-4-8 水叩工と同じ <p>（３）床固め工（砂防）の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【8-2-5-4 床固め本土工】、【8-2-5-5 垂直壁工】：8-1-8-4 コンクリート堰堤本土工と同じ ・【8-2-5-6 側壁工】：8-1-8-6 コンクリート側壁工と同じ ・【8-2-5-7 水叩工】：8-1-8-8 水叩工と同じ 	1回／1構造物

18-10. 重要構造物（共同溝）

「土（岩）質の変化した時」、「床堀掘削完了時」、「鉄筋組立完了時」は、18-1. 重要構造物（鉄筋コンクリート擁壁）と同じ。

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
埋戻し前及び設置完了時	設計図書との対比（不可視部分の出来形を含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・構造物の出来形について設計図書と対比し、測定項目が規格値以内であることを確認する。 ・測定項目は、出来形管理基準による。 <p>【10-11-6-2 現場打躯体工】：基準高、厚さ、内空幅、内空高、ブロック長</p>	1回／1構造物

19. 床版工

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
鉄筋組立て完了時	使用材料	監督員の確認又は承諾（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。	1回／1構造物
	設計図書との対比	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄筋のかぶり、有効高さ及び鉄筋間隔について設計図書と対比し、規格値以内であることを確認する。【出来形管理基準 3-2-18-2 床版・横組工】 ・鉄筋の径、長さ、本数、継手位置や方法（継手長結束状況）、継手長及び床版厚について、設計図書どおりであることを確認する。 	

20. 鋼橋上部工（桁製作工、横断歩道橋製作工）

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
仮組立完了時(仮組立てが省略となる場合は除く)	仮組立精度	設計図書と対比し、仮組立精度が規格値内であるか確認する。【出来形管理基準 3-2-12-3-1 桁製作工（仮組立による検査を実施する場合）】	1 回 / 1 構造物

21. コンクリート橋上部工（ポストテンション桁製作工、プレキャストセグメント主桁組立工、プレビューム桁製作工、PCホロースラブ製作工、PC版桁製作工、PC箱桁製作工、PC片持箱桁製作工、PC押出し箱桁製作工、床版工・横組工）

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
プレストレス導入時、横締め作業時	設計図書との対比	<ul style="list-style-type: none"> ・緊張管理計画書に従ってプレストレスを導入するよう管理が行われているか、作業状況を確認する。（緊張管理計画書） <ul style="list-style-type: none"> ①引張装置のキャリブレーション結果 ②PC鋼材のプレストレスの管理に用いる摩擦係数 ③PC鋼材の見かけのヤング係数 ・プレストレス時の鋼材の緊張力及びコンクリートの圧縮強度について設計図書と対比し、所定の強度等を得られているか確認する。 	一般：5% / 総ケーブル数 重要：10% / 総ケーブル数
プレストレス導入時、縦締め作業時	設計図書との対比	<ul style="list-style-type: none"> ・緊張管理計画書に従ってプレストレスを導入するよう管理が行われているか、作業状況を確認する。（緊張管理計画書） <ul style="list-style-type: none"> ①引張装置のキャリブレーション結果 ②PC鋼材のプレストレスの管理に用いる摩擦係数 ③PC鋼材の見かけのヤング係数 ・プレストレス時の鋼材の緊張力及びコンクリートの圧縮強度について設計図書と対比し、所定の強度等を得られているか確認する。 	一般：10% / 総ケーブル数 重要：20% / 総ケーブル数
PC鋼線・鉄筋組立完了時（工場製作を除く）	使用材料	監督員の確認又は承諾（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。	一般：30% / 1 構造物 重点：60% / 1 構造物
	設計図書との対比	(1) PC鋼線 PC鋼線又はシースについて、設計図書どおり配置されているか確認する。 (2) 鉄筋組立て ・鉄筋の平均間隔、鉄筋のかぶり及び有効高さについて設計図書と対比し、規格値以内であることを確認する。【出来形管理基準 3-2-18-2 床版・横組工】 ・鉄筋の径、長さ、本数、継手位置や方法（継手長結束状況）及び定着長について、設計図書どおりであることを確認する。	

22. トンネル掘削工

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
土（岩）質の変化した時	土（岩）質変化位置	設計図書に示された土及び岩の契約分類毎に、土質状態をボーリング柱状図等と比較し、土（岩）質変化位置を確認する。	1 回 / 土（岩）の変化毎

23. トンネル支保工

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
施工前	使用材料	支保工、ロックボルト、溶接金網等について材料検収を行い、設計図書どおりであるか確認する。	1回/1工事
支保工完了時 (支保工変更毎)	吹付コンクリート厚	設計図書と対比し、規格値以内であるか確認する。【出来形管理基準10-6-4-3吹付工】	1回/支保工変更毎
	ロックボルト突出量	設計図書と対比し、規格値以内であるか確認する。【出来形管理基準10-6-4-4ロックボルト工】	
	打込本数・間隔	設計図書どおり施工されているか確認する。	

24. トンネル覆工

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
コンクリート打設前	巻立空間	<ul style="list-style-type: none"> ・巻立空間(厚さ)について設計図書と対比し、規格値内であるか確認する。【出来形管理基準10-6-5-3覆工コンクリート工】 ・鉄筋の径、本数、間隔、かぶり厚さ、継手の位置や長さについて、設計図書どおりであるか確認する。 	一般: 1回/構造の変化毎 重点: 3打設毎又は1回/構造物の変化毎の頻度の多い方
コンクリート打設後	出来形寸法	基準高(拱頂)、幅(全幅)、高さ(内法)及び厚さについて設計図書と対比し、規格値以内であるか確認する。【出来形管理基準10-6-5-3覆工コンクリート工】	1回/200m以上臨場により確認

25. トンネルインバート工

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
鉄筋組立完了時	設計図書との対比	鉄筋の径、本数、間隔、かぶり厚さ、継手の位置や長さについて、設計図書どおりであるか確認する。	1回/構造の変化毎

施工状況把握における留意事項

1. 工事測量

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
着工前、及び着工後に設置したものはその都度	工事用測量標、工事用引照点、測量標、用地境界、中心線等	<p>工事用測量標や工事用引照点等に誤りはないか、着工前測量結果や測量資料をもとに測定又は確認する。</p> <p>(1) 必須測定項目 (必ず測定又は確認)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事用測量標 (仮基準点、仮BM) 【共通仕様書 1-1-38 工事測量 2. 着工前測量 (2)】により受注者が設置したもの】 ・工事用引照点 (工事用多角点、工事用水準点) 【共通仕様書 1-1-38 工事測量 3. 工事用引照点の設置】により受注者が設置したもの】 <p>(2) 任意測定項目 (工事目的物に応じて測定又は確認)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・測量標 (基準点、BM)、用地境界、中心線、縦断、横断等 	1回/1工事

2. 用地境界、測量標

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
工事完成時	用地境界、測量標、工事用測量標、工事用引照点、中心線等	<p>用地境界杭 (鉋) の位置 (座標) が設計図書どおり施工されているか、測量標等の位置が動いていないか測定又は確認する。</p> <p>(1) 必須測定項目 (必ず測定又は確認)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用地境界杭 (鉋) <p>(2) 任意測定項目 (工事目的物に応じて測定又は確認)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・測量標 (基準点、BM)、工事用測量標 (仮基準点、仮BM)、工事用引照点 (工事用多角点、工事用水準点)、中心線等 	1回/1工事 (用地境界の場合10%、最低2箇所)

3. 共通の工種

3-1. 共通の工種 (道路改良)

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
施工完了時	幅 W_1 、 W_2 W_3	設計図書と対比し、規格値以内であるか確認する。【出来形管理基準 3-2-3 道路改良】	一般：10% (延長 200m 以下の場合 2 箇所) 重点：30%
	中心線、基準高	道路中心線の位置 (座標)、道路の基準高 (中心及び左右) が設計図書どおり施工されているか確認する。	

3-2. 共通の工種 (護岸工・流路工)

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
施工完了時	幅 W_1 幅 W_2	設計図書と対比し、規格値以内であるか確認する。【出来形管理基準 3-2-3 護岸工・流路工】	一般：10% (延長 200m 以下の場合 2 箇所) 重点：30%

4. オープンケーソン基礎工、ニューマチックケーソン基礎工、深礎工

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
コンクリート打設時	品質規格	スランプ、空気量及び塩化物量について、規格値以内であるか確認する。また、1日当たりの打設量が100m ³ 以上の場合は、単位水量測定についても確認する。【品質管理基準 1セメント・コンクリート】	一般：1回／1構造物 重点：1回／1ロット
	天候、気温	天候、気温が施工に支障はないか把握する。	
	運搬時間	生コン車の伝票により、運搬時間を確認する。	
	打設方法	・練混ぜてから打ち終わるまでの時間が、外気温が25℃を超える場合で1.5時間以内、25℃以下の場合で2時間以内であるか確認する。 ・打設方法について、共通仕様書で定められた条件を満たしているか確認する。	

5. 場所打杭（リバース杭、オールケーシング杭、アースドリル杭、大口径杭）

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
コンクリート打設時	品質規格	スランプ、空気量及び塩化物量について、規格値以内であるか確認する。また、1日当たりの打設量が100m ³ 以上の場合は、単位水量測定についても確認する。【品質管理基準 1セメント・コンクリート】	一般：1回／10本 重点：1回／5本
	天候、気温	天候、気温が施工上支障はないか把握する。	
	運搬時間	生コン車の伝票により、運搬時間を確認する。	
	打設方法	・練混ぜてから打ち終わるまでの時間が、外気温が25℃を超える場合で1.5時間以内、25℃以下の場合で2時間以内であるか確認する。 ・打設方法について、共通仕様書で定められた条件を満たしているか確認する。	

6. 重要構造物（土木工事監督基準 別紙2のうち橋梁上部工、トンネル、ダムを除く。）

6-1. 重要構造物

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
コンクリート打設時	品質規格	スランプ、空気量及び塩化物量について、規格値以内であるか確認する。また、1日当たりの打設量が100m ³ 以上の場合は、単位水量測定についても確認する。【品質管理基準 1セメント・コンクリート】	一般：1回／1構造物 重点：1回／1ロット
	天候、気温	天候、気温が施工上支障はないか把握する。	
	運搬時間	生コン車の伝票により、運搬時間を確認する。	
	打設方法	・練混ぜてから打ち終わるまでの時間が、外気温が25℃を超える場合で1.5時間以内、25℃以下の場合で2時間以内であるか確認する。 ・打設方法について、共通仕様書で定められた条件を満たしているか確認する。	

6-2. 重要構造物（砂防堰堤）

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
打継目処理完了時	打継目処理状況	打継目の処理について、コンクリート表面のレイタンスや緩んだ骨材粒などを完全に取除き、粗骨材粒を露出させているか、十分に吸水させているかを確認する。 また、必要がある場合は、高圧水、ワイヤブラシ等により、表面を粗にしているかを確認する。	前回工事とのコンクリート打継面＋1回以上／工事

7. 床版工

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
コンクリート打設時	品質規格	スランプ、空気量及び塩化物量について、規格値以内であるか確認する。また、1日当たりの打設量が100m ³ 以上の場合は、単位水量測定についても確認する。【品質管理基準 1セメント・コンクリート】	一般：1回／1構造物 重点：1回／1ロット
	天候、気温	天候、気温が施工上支障はないか把握する。	
	運搬時間	生コン車の伝票により、運搬時間を確認する。	
	打設方法	<ul style="list-style-type: none"> 練混ぜてから打ち終わるまでの時間が、外気温が25℃を超える場合で1.5時間以内、25℃以下の場合で2時間以内であるか確認する。 打設方法について、共通仕様書で定められた条件を満たしているか確認する。 	

8. コンクリート橋上部工（ポストテンション桁製作工、プレキャストセグメント主桁組立工、プレビーム桁製作工、PCホロースラブ製作工、PC版桁製作工、PC箱桁製作工、PC片持箱桁製作工、PC押し箱桁製作工、床版工・横組工）

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
コンクリート打設時（工場製作を除く）	品質規格	スランプ、空気量及び塩化物量について、規格値以内であるか確認する。また、1日当たりの打設量が100m ³ 以上の場合は、単位水量測定についても確認する。【品質管理基準 1セメント・コンクリート】	一般：1回／1構造物 重点：1回／1ロット
	天候、気温	天候、気温が施工上支障はないか把握する。	
	運搬時間	生コン車の伝票により、運搬時間を確認する。	
	打設方法	<ul style="list-style-type: none"> 練混ぜてから打ち終わるまでの時間が、外気温が25℃を超える場合で1.5時間以内、25℃以下の場合で2時間以内であるか確認する。 打設方法について、共通仕様書で定められた条件を満たしているか確認する。 	

9. 橋梁耐震補強工（落橋防止装置工）

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
削孔後	削孔長	曲がらない定規により測定。設計図書と対比し、規格値内であるか測定する。【出来形管理基準10-16-22橋梁耐震補強工（アンカーボルト）】	一般：30% 重点：60%
定着後	アンカーボルト定着長	超音波探傷器により測定。設計図書と対比し、規格値内であるか測定する。【出来形管理基準10-16-22橋梁耐震補強工（落橋防止装置工）】	

10. トンネル工

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
施工時（支保工変更毎）	施工状況	掘削方法、支保工（吹付、ロックボルト、鋼製支保工）、覆工、インバート工について、設計図書や施工計画書と対比し、所定の方法で施工を行っているか確認する。	一般：1回／支保工変更毎 重点：1回／支保工変更毎。ただし、最低10支保工毎。

11. 抑止アンカー工（グラウンドアンカー）

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
削孔時	定着地盤	削孔スライムやアンカーの削孔データ等から、定着地盤が設計図書どおりの位置であるか確認する。	一般：1回/10本 重点：1回/5本
削孔完了時	削孔深さ、せん孔方向	設計図書と対比し、規格値以内であるか確認する。【出来形管理基準 3-2-14-6 アンカー工】	
アンカー体組立時	使用材料	監督員の確認又は承諾（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。	
グラウト注入時	フロー値、加圧力	・フロー試験を行い、規格値内であるか確認する。 ・加圧力を計測し、加圧注入が適切に行われているか確認する。	
緊張時	緊張力、定着力	多サイクル確認試験や1サイクル確認試験を行い、所定の緊張力が導入されているか、設計どおりの定着力が得られているか確認する。	

12. 盛土工（河川、砂防、海岸）

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
敷均し、転圧時	使用材料	設計図書に定められた盛土材料（購入土、流用土）を使用しているか、不純物が混じっていないか等を確認する。	一般：1回/1工事 重点：2回/1工事
	敷均し・締固め状況	敷均し及び締固めについて、一層の仕上り厚さが共通仕様書どおりであるか確認する。	

13. 路体盛土工、路床盛土工

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
敷均し、転圧時	使用材料	設計図書に定められた盛土材料（購入土、流用土）を使用しているか、不純物が混じっていないか等を確認する。	一般：1回/1工事 重点：2回/1工事
	敷均し・締固め状況	敷均し及び締固めについて、共通仕様書に定められた施工方法を行っているか、1層の仕上がり厚さが規定値内であるか確認する。	

14. 舗装工（橋面防水工、アスファルト舗装工、半たわみ性舗装工、排水性舗装工、透水性舗装工、グーラスアスファルト舗装工、コンクリート舗装工、薄層カラー舗装工、ブロック舗装工、路上再生工）

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
舗設時	使用材料	監督員の確認又は承諾（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。	一般：1回/1工事 重点：1回/3000m ³
	敷均し・締固め状況	・敷均し及び締固めについて、共通仕様書に定められた施工方法を行っているか、1層の仕上がり厚さが規定値内であるか確認する。 ・コンクリート舗装に鉄網や縁部補強鉄筋、目地を設ける場合は、設計図書どおりであるか確認する。	
	天候・気温・舗設温度	天候、気温が施工上支障はないか把握する。 [加熱アスファルト安定処理、基層、表層のみ適用] 混合物の舗設温度が規定値内であるか確認する	

15. コンクリート舗装補修工

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
施工時	使用材料	監督員の確認又は承諾（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。	1回／1工事
	使用量	アスファルト注入材料の使用量を質量検収により確認する。	

16. 現場塗装工

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
清掃・錆落とし施工時	清掃・錆落とし状況	清掃、錆落としが適切に実施されているか確認する。	1回／1工事
施工時	使用材料	監督員の確認又は承諾（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。	
	天候、気温	天候と気温が施工に適しているか把握する。	

17. 樹木・芝生管理工、植生工（施肥、薬剤散布）

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
施工時	使用材料	監督員の確認又は承諾（品質・規格）を受けた肥料や薬剤を適切に使用しているか確認する。	1回／1工事
	天候、気温	天候と気温が施工に適しているか把握する。	

18. 植栽維持工

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
現場搬入時	使用材料	監督員の確認又は承諾（品質、規格）を受けた材料が搬入されているか確認する。	1回／1工事

19. 地下水位低下工（ウェルポイント、ディープウェル）

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
施工前	土質、地下水位、透水係数、湧水量等	掘削完了後、土質、地下水位、透水係数、湧水量等を確認・計測。設計図書等と比較し相違はないか確認する。	1回／1工事

20. 光ケーブル配管工（配管工）

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
施工前	使用材料	監督員の確認又は承諾（品質、規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。	1回／1工事
施工後	接続状況	埋設管路については防護コンクリート打設後又は埋戻し後に、また、露出・添架配管についてはケーブル入線前において、通過試験を行い、管路が完全に接続されているか確認する。	

21. 現場点検

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
工事着手前又は着手直後、及び工事中間時	現場点検	支障物件（上下水管、電線、立木など）の状況や、現地と計画上の不整合はないか、取付道や用水路の確保など付帯工事に漏れはないか、安全対策や施工方法は適切か、施工途中の構造物に異常はないか等、施工上支障となる事項や何らかの問題点はないか現場全般に渡り点検する。	2回以上/工事 ただし、維持的工事（伐開、河床掘削、舗装補修、道路維持、植栽管理等）など比較的軽易な工事は除く。 工事中間時は、工事進捗が概ね50%の時点を目安とする。

22. 自社施工対象工事

確認時期	確認項目	留意事項	確認頻度
自社施工要領「別表第6欄」による	自社施工要領「第2条」に定める条件	自社施工要領「第6条（施工体制の事前確認）」を行ったうえで、左記の確認時期に「第7条（施工体制の現地確認）」に基づき現場確認を行い、自社施工要領「様式第2号」に記録する。	自社施工要領「別表第7欄」による

※自社施工要領：鳥取県県土整備部自社施工対象工事適正実施要領